

YAMANASHI

あけん

保坂新会長御挨拶



介護保険制度の充実に向けて

山梨県老人保健施設協議会平成十六年度～十七年度役員紹介
平成十六年度山梨県老人保健施設協議会定期総会
リハビリテーション部会の活動について

施設訪問記 山梨ライフケアホーム

施設紹介 ケアセンターいちかわ・ももくら

会長就任によせて



山梨県老人保健施設協議会
会 長
ほ さか ひさし
保 坂 久
(いちのみやケアセンター理事長)

全てが緑に燃え生气あふれる今日この頃、皆様益々ご清祥のことと心からお喜び申し上げます。

さてこの度、先の総会において故島津壽宏前会長の後を受けて会長の職をお引きいたすことになりましたが、皆様もご承知の通り、前会長は本協会創立以来、十数年に渡り、本会のためにご尽力され、山梨県老人保健施設協議会の基礎を築き、現在の素晴らしい発展のレールを引かれた卓越した指導者でもありました。昨年、不幸にして他界されましたことは、私達会員にとって大きな損失であるばかりで無く、山梨県における老人の福祉、介護の面からも大きな損失でありました。今回計らずも島津会長の後を継ぐ事になりましたが、その責任の重大さに身の引き締まる思いであります。私は、前会長が培った山老協のこの路線を路襲し介護老人保健施設に与えられた使命を出来るだけ履行するよう会員の皆様とともに、努力して参りたいと考えて居ります。

ところで、近年少子高齢化が急速に進み日本は益々高齢化社会を加速しつつあります。国は平成12年から公的介護保険を発足させ超高齢化に対応するさまざまな施策を講じつつあります。しかしながら老人が要介護状態になっても安心して暮らせる社会の実現のために懸命な努力を重ねつつありますが、今だ、さまざまな問題が山積みしていると言わざる得ません。そうした中であって、今私達老健施設が中間施設として、また、自立を支援し家庭復帰を目指す施設として社会のニーズに答え様と懸命に努力している姿は真に崇高なものと感ぜざるを得ません。しかしこの崇高な実践が次第に困難になりつつあることも又、事実だと思えます。昨年行われた介護報酬の改定も老健施設にとってかなり厳しいものがあり、老健施設に入所を希望する方々の要介護度も次第に高くなる傾向にあります。将来、介護保険が国民の中に定着し老人が安心して老後の生活を送ることができ、また介護する側にとっても無理の無い施策の中で介護が実践できるよう、今こそ真剣に考えなければならない時期にきているのではないのでしょうか。昨年10月全国老人保健施設協会においても制度見直しに対する具体的な検討項目を挙げ、いくつかの具体的提言を行っております。私はその中で、特に施設における医療の在り方について根本的に考え直す必要があると思えます。又、今後リハビリテーションを強化せよと言う国の指導は誠に適切な指摘であり自立支援、家庭復帰の最も有効な手段と考えます。老健施設の魅力はまさにその点であり、これを一層進めさせるためには、やはり国がさらに何らかの手を差し伸べる施策が必要ではないでしょうか。入所者が安心して満足に生活できる環境を提供し、私達も喜んでケアできる場が一日も早く実現されるよう強く希望する次第です。

皆様および会員一同の益々のご健勝と、ご発展をお祈り申し上げるとともに協会発展のために更に一層のご協力を賜りますよう心からお願い申し上げますご挨拶とさせていただきます。

介護保険制度の充実に向けて



山梨県福祉保健部
長 寿 社 会 課 長
お ぬま せい じ
小 沼 省 二

山梨県老人保健施設協議会の皆様には、日頃から本県の福祉保健行政推進に御理解と御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、介護保険制度は、施行から4年を経過し、サービス利用の増加が顕著となっております。現在、国では、法施行後5年を節目とした制度の見直しが検討されているところですが、その中では、「高齢者の尊厳を支えるケアの確立」をキーワードとして、リハビリテーションの充実、ユニットケアの推進、「在宅」と「施設」以外の多様な「住まい方」などが重要な論点となっております。それと併せて、新たな痴呆性高齢者ケアマネジメント手法の研究・開発や高齢者虐待防止を中心とした人権擁護の取り組みも始まっております。

こうした動きを踏まえつつ、本県は、サービスの基盤整備と質の向上のための施策を推進しているところであります。

介護老人保健施設の整備については、現在、29施設、2,700床が開設されており、平成19年度末目標である2,790床の達成が間近となりました。

また、サービスの質の向上については、まず第一にサービス評価の推進が挙げられます。昨年度、介護保険施設の自己評価基準を作成し、皆様方の御協力をいただいたところですが、本年度は、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションなど7サービスの評価基準を作成しております。

また、利用者が介護サービスを選択する際の情報を提供するため、国の定めた調査項目に沿って調査員が評価を行う「情報開示の標準化」について、本年度、モデル事業を実施いたします。

そのほか、身体拘束解消や苦情・事故等に対する適切な対応についても、一層の推進を図ってまいります。

これらの施策は、介護保険の基本理念である「在宅重視」と「自立支援」を再確認し、高齢者が、住み慣れた地域で尊厳と生きがいをもって暮らせるよう支援することを目的としたものであり、この施策推進につかまして、引き続き御協力をお願い申し上げます。

本協議会は、日頃から様々な研修や啓発事業を実施されており、特に、昨年7月に開催された「北陸甲信越地区やまなし大会」は、北陸甲信越6県の関係者が一堂に会し、相互の研鑽と交流を深め、大きな成果を挙げられました。その活動と団結力に深く敬意を表する次第であります。

終わりに、本県福祉施策への御協力を改めてお願いするとともに、山梨県老人保健施設協議会の更なる御発展を祈念して私の挨拶といたします。

山梨県老人保健施設協議会 平成16年度～17年度 役員紹介



副会長 輿石 詔三 (こしいし しょうぞう)

NAC湯村 施設長 (甲府圏域)

抱負：介護を取り巻く厳しい現実のなか会員各位にとってメリットのある協議会としていきたい。



研修委員長 臼井 行夫 (うすい ゆきお)

甲府相川ケアセンター 理事長 (甲府圏域)

抱負：研修の意義は大きいと思います。
精一杯、その職責を全うしたいと思います。宜しくお願い致します。



広報委員長 草野 佐 (くさの たすく)

鯉沢社会保険介護老人保健施設 施設長 (峡西・峡南圏域)

抱負：介護保険制度の抜本改革を目の前にし、老健施設を取り巻く環境は益々重要な時期を迎える。保坂新会長のもと、皆様方とともに微力ながら全力を尽したい。



福利委員長 山本 恭雄 (やまもと やすお)

あさひホーム 理事長 (峡北圏域)

抱負：組織の一角として与えられた事業を忠実に推進することを誓います。御協力を願います。



研修副委員長 武川 寿美江 (たけかわ すみえ)

白樺荘 施設長 (富士北麓・東部圏域)

抱負：職員の資質の向上を図る研修担当として、委員長の補佐をしっかりとやりたい。

平成16年度 山梨県老人保健施設協議会定期総会

平成16年度山梨県老人保健施設協議会定期総会は、5月21日（金）ベルクラシック甲府を会場として、新規開設の旭ヶ丘（上野原町）を加えて、全28施設の代表の方々が参加されて開催されました。

開会の挨拶は、跡部勝朗会長代行が体調不良のため欠席され、臼井行夫理事を代理として行われ、その冒頭で故島津壽宏前会長の永年にわたる功績を讃えるとともに、全員で黙祷しご冥福をお祈りいたしました。

ついで、山梨県長寿社会課小沼省二課長からご挨拶をいただきました。その中で、介護保険の円滑な運営において介護老人保健施設の果たす役割を高く評価され、また介護保険法の見直しという重大な時期にあってその動向に敏感に対応しつつ、平成18年に予定される次期改正にはスムーズな制度導入に努め、よりいっそう高齢者介護のために尽くしてほしいとのお言葉をいただきました。

平成15年度の事業・会計報告に引き続き、新役員が承認され、新しい協議会役員・圏域別理事・委員会役員等が決定されました。そして、当協議会としては二人目に当たる会長には、保坂久会長（いちのみやケアセンター）が就任され、「昨年の介護保険法改定後、厳しい状況にある介護老人保健施設のために、故島津先生の業績のあとを、その路線に沿って頑張っていきたい。」とのご挨拶がありました。



今回大きな議題となったことは、新体制スタートに際して、事務局体制の強化が図られたことです。協議会創設以来の事務局事情や28施設となった会員数などによる事務量の増大等により、事務局経費の見直しの必要性に迫られ、ひいては、協議会年会費を値上げし、それに充てることに決定しました。

委員会・部会事業計画では、研修委員会からは、職員の資質の向上のために特別研修会の開催が提起され、広報委員会でも、時代の趨勢としてホームページをよりいっそう活用した積極的な広報活動が提案されました。また、事務長部会では、協議会運営をより円滑に進めることができるように、圏域別幹事会を設けることとなりました。

協議会としての体制も、役員等の顔ぶれも大きく変わって、協議会としての新しい第一歩を踏み出すこととなりました。全会員の惜しみない協力によって、協議会のいっそうの発展を祈ります。



リハビリテーション部会の活動について

リハビリテーション部会長 長田 悟
(峡北シルバーケアホーム)



介護老人保健施設は俗に中間施設やリハビリ施設と呼ばれ、病院から在宅への復帰を促すものであると言われていています。その中で「我々リハビリスタッフが出来る事は何だろう？」そのような自問自答を繰り返しながら、リハビリ部会は年3回の活動を通して模索しています。施設の理学療法士・作業療法士は各県士会に所属し、専門知識の向上に努めていますが、リハビリ部会はそれとは別に、老人保健施設のリハビリスタッフが職種を問わずに情報交換を行う場として位置づけられています。

通常1回目と3回目は施設見学を兼ねて新規開設施設へ出向き、年々良くなる環境や設備に自分の施設と比べてカルチャーショックを受けると共に、情報交換の場として、多くの施設職員が参加しています。そして2回目の部会は毎年内容が変わり、昨年度は看護・介護部会と合同で札幌医科大学の石川 朗教授を講師としてお招きして呼吸器に対する運動やリハビリについて大変有意義な講義を聞く事が出来ました。今年度もリハビリ部会という枠に捕らわれずに他職種の方々との交流を図れるような企画を考えたいと思いますのでご期待下さい。

リハビリスタッフは通常1施設に1～数名の人数しか居ないため、看護・介護スタッフと比べると少し遠い存在のような気がしませんか？でも、そんな事はありません。実はリハビリスタッフも寂しかったりするので、ですから、気軽に声を掛けてもらえると結構嬉しかったりします。また、リハビリスタッフと他職種のコミュニケーションが良く取れている施設ほど、利用者さんの笑顔が多いような気がします。そして、施設内で解決できない問題等があったら、それをリハビリ部会の方へ問題提起をして頂ければ、それが山梨県全体の、また今後の老健施設の発展に繋がるのでは無いかと考えます。解決出来ない問題も沢山ありますが、他の施設の意見や情報を聞くというのには良い機会だと思います。

自立支援と在宅復帰と言う大きな命題を与えられた老健施設に、その中核を成すのはリハビリスタッフだと自負しています。ただしリハビリスタッフも単体ではとても利用者さんの日常生活や将来的な展望の全てにおいて関わる事は出来ません。我々が安心して活動できるのは、医師・看護・介護職員を始めとするケアマネジャー・支援相談員・事務職等の職種の方々が老健施設の役割を理解し、協力して頂いているからです。施設職員はひとつのチームです。チームワークを固めて今後も発展していきましょう！





設けています。又、クリスマス会のガールスカウトのハンドベル演奏や、毎年近くのワイナリーの方々にご協力を頂きながら実施しているお花見や紅葉狩りは、利用者の皆様に大変好評です。

3. 今後の目標、取り組みは

利用者の毎日の生活を更に楽しく充実したものにするために、レクリエーションを見直し次の通り行います。すでに一部は実行し好評を得ているので継続したい。

昔の出来事を中心に紙芝居を行う。

外食会やおやつの買い物会を行う。

ピクニックを行う。

今年度、浴室の改装を手がけ、抗菌仕様の快適・安全・衛生的・機能的な環境を作り、楽しい入浴と考えています。今後も利用者にとって安らぎのケア施設であるように職員一同(創意工夫)を念頭にきめ細かな対応を実践していきます。

取材を終え、事務長の優しい人柄と、職員の皆様の暖かな対応に感謝し、入所者の笑顔に見送られながら、今回の施設訪問を無事終えることができました。



風薫る五月晴れの日、山梨ライフケアホームを訪問させていただきました。東南に富士山、北西に八ヶ岳、北に秩父の山々を遠望することができ、敷地外の雑木林には、様々な野鳥が来訪し、とても自然に恵まれ利用者にとって本当に安らぎを感じる環境の中にありました。今回は、施設の特徴や今後の目標、取り組みについて、山畑事務長にお話を伺いました。

1. 施設の特徴

県下で4番目の老健施設として平成2年に設立されました。玄関を入ると先ず目にはいるのがソファに囲まれた木、これを「聖樹」と呼び、利用者や職員が憩うことによる心の平穏への願いを具象化したものです。廊下は車椅子のすれ違いも楽々できるように、広々としたスペースになっています。

とにかく、他に頼らず、自分たちの頭で考え、創意工夫の中で実践し利用者の皆さんを介護させていただくことを基本理念としています。「生きることの本当の尊さを知る、愛との出会い、今日もこれから博愛の心に満たされた崇高な仕事を行います。」朝の申し送り時に唱和しています。

2. 地域との触れ合い

看護師、栄養士、理学・作業療法士の各学校からの実習生を積極的に受け入れ、老健施設について肌で感じていただく機会を

施設の概要

入所定員 100名「個室4部屋 2人室6部屋」

通所定員 1単位「20名」

協力病院 社会保険山梨病院

協力歯科 花形歯科医院

所在地 〒400-0111 中巨摩郡竜王町竜王新町2128

電話番号 055 - 279 - 4711 F A X 055 - 279 - 4713

設置・運営主体 医療法人 聖樹会

● 施 設 ● 紹 介 ●

ケアセンターいちかわ

人は誰もが健康で幸せな生活を願っています。地域で生まれ、地域で育っていくのが理想であり、これを支えるのが保健・医療・福祉であります。

市川大門町は高齢化社会に対応して、「福祉保健総合ステーション」を平成7年度に建設し、このステーションの2階・3階に「ケアセンターいちかわ」が、平成8年5月、県内17番目の施設としてオープン致しました。

市川大門町は、古くから和紙と花火の産地として、日本全国にその名が知られています。毎年8月7日に行われる「神明の花火大会」には県内外から大勢の人が訪れます。この日は、施設入所者も居室から又バルコニーから観覧し、一夜花火の美しさにご満悦されます。また、開所当初から町内にある保育園と幼稚園の園児たちと、年間を通して、交流を図っています。職員も「高齢者が自宅で自立した生活が送れるように、支援させていただくという心構えを忘れないこと」を施設方針に日夜努力しています。



ももくら



医療法人富士厚生会介護老人保健施設ももくらは、大月市で初めての老人保健施設として平成10年11月28日に開設いたしました。百蔵山中腹に位置し、富士山を一望できる森林に囲まれた自然環境の中、四季折々の風景を楽しみながら療養生活を

を過ごすことができます。

入所定員100名（痴呆専門棟30名）、通所リハビリテーション定員30名、在宅介護支援センター・訪問看護ステーションも併設しており、その他長期療養型を備えた診療所・訪問リハビリ等、看護・リハビリテーションに必要な施設が一つの医療法人で行われ、地域のニーズに応えているところです。

施設設備にあっては、利用者があかるく毎日を過ごせるよう、インテリア（色彩）で各階を分け、広さ等も十分取りながら家庭的な雰囲気のある建物となっております。

利用者の皆様に施設での生活を楽しんでいただく為、行事委員会で企画した春の遠足（いちご狩り）・ポウリング大会・秋祭り・節分・キャンドルサービス・行事食等、季節にあった行事を提供しております。また、地元小中学校や地域ボランティアの皆様との交流を積極的に行い、地域に根ざした施設となるよう、職員一同努力しております。

当法人のコンセプトでもある、「人・優・愛・健・楽」（人、自然を優しく愛し、健康で楽しい生活を）を常に持った介護老人保健施設を目指しております。

シリーズ さくひん



鯉のぼり（山梨ライフケアホーム）

リハビリで行っている貼り絵をやりたいとの利用者からの要望で、今年の節分から実施しています。端午の節句会の主役はやはり鯉のぼりです。職員の誘導で、ウロコ一枚貼る人、せっせと一人で貼る人、（そんな貼り方じゃ駄目だよ）（あんたはあっちをやって）と仕切る人、皆がワイワイしているのを微笑みながら見ている人等様々です。出来上がった作品を前に利用者の方から自然と拍手が起こります。30分ほどですが利用者の皆さんが奮闘された傑作です。

編集後記

平成16年度・17年度の2年間、広報委員長を務めることになった鯉沢社会保険介護老人保健施設サンビューかじかざわ施設長の草野佐（くさのたすく）です。新任として、山梨県老人保健施設協議会事業の推進に微力ながら広報委員共々貢献できればと考えております。

さて、平成16年度の広報委員会事業については、「YAMANASHIろうけん」Vol.15とVol.16を発行すると共に、多くの皆様方に広くご利用頂くため「山梨県老人保健施設協議会ホームページ」の刷新を行うことについて、先般開催された定期総会で承認されました。広報委員会では、老人保健施設の全職員が関心を持ってお読み頂ける内容、またご利用者様や一般の方にはこれから変革を迎える介護保険を判りやすくお伝えできる内容になるよう誌面づくりを企画して行きたいと考えていますので、ご指導、ご協力を賜りますようお願いいたします。

山梨県老人保健施設協議会 広報委員長 草野 佐

【広報委員】大戸恒彦（鯉沢：副施設長） 恩田義也（ノイエス：事務長） 鮎川彰（甲府かわせみ苑：苑長） 渡辺喜信（玉穂ケアセンター：事務長） 近山貴紀（恵信ケアセンター：事務長） 坂本勝（甲州ケア・ホーム） 池川良人（ケアセンターいちかわ：次長） 内藤實（しおかわ福寿の里：事務長） 卯月邦彦（ももくら：事務課長） ほか事務局として三井三男（いちのみやケアセンター：事務長） 小泉栄美（いちのみやケアセンター）



山梨県老人保健施設協議会広報誌

編集・発行 山梨県老人保健施設協議会
広報委員会

事務局 〒405-0076
山梨県東八代郡一宮町竹原1255-1
いちのみやケアセンター内
TEL.0553-47-4811
FAX.0553-47-4815
ホームページ:

<http://www.kokumon.co.jp/y-rouken/>
Eメール:rouken@tiara.ocn.ne.jp

制作 株式会社 少国民社